

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	前橋市立岩神小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	1	15	22
児童数	86	87	78	61	69	71	1	453	

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童の育成」
個に応じたきめ細かな学習指導を通して

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2年生～6年生・算数(子どもの理解に差が出やすい教科であること、また、13年度から少人数指導を継続して実施しており、その成果をもとに14年度は、習熟度別少人数指導も取り入れ研究の枠を広げてきた実績がある)

(2) 年次ごとの計画

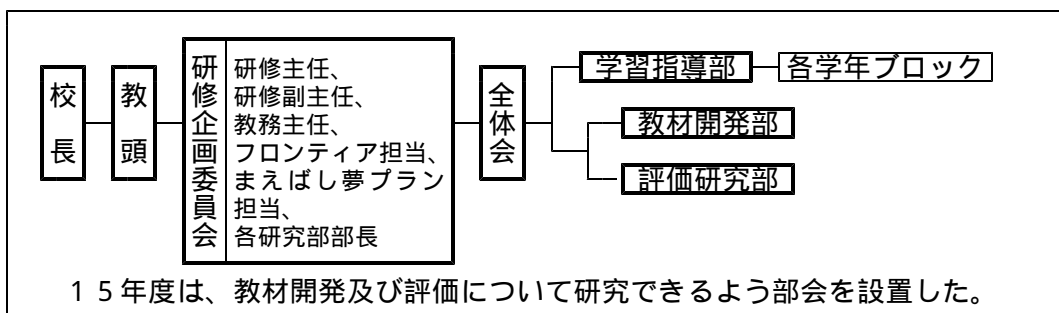
平成14年度	<p>テーマ 「自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童の育成」 個に応じたきめ細かな学習指導を通して</p> <p>研究の見通し(仮説) 学習指導において、少人数指導やTT指導の導入など個に応じたきめ細かな指導のための指導方法や指導体制の工夫・改善を行えば、基礎・基本の確実な定着を図ることができ、自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童を育てることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じたきめ細かな指導の工夫・改善 ・少人数指導、学年・学級TTによる算数指導の工夫・改善</p> <p>(2) 基礎・基本の定着と繰り返し指導 ・朝自習時間の活用 ・習熟度別学習プリントの作成と実施</p> <p>(3) 校時表の弾力的運営 ・児童の実態に応じる算数の少人数指導・TT指導時間の弾力的運営</p> <p>(4) 一人一人の学習状況に対する適切な評価と支援の工夫 ・自己評価、教研式学力テストの実施と分析</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童の育成」 個に応じたきめ細かな学習指導を通して</p> <p>研究の見通し 算数の学習指導において、少人数指導や習熟度別コース指導など個に応じたきめ細かな指導のための指導方法や指導体制の工夫・改善を行えば、基礎・基本の確実な定着を図ることができ、自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童を育てることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じたきめ細かな指導の充実 ・少人数指導(習熟度別コース学習を含む) 学年・学級TT等を取り入れた算数の指導方法、指導体制の工夫・改善</p> <p>(2) 基礎・基本の定着と繰り返し指導</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習時間の充実 ・習熟度別学習プリントの作成 ・家庭学習プリントの作成 <p>(3)指導計画の工夫と教員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた指導計画の作成 ・より効果的に指導するための教員配置の工夫 <p>(4)一人一人の学習状況に対する適切な評価と支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を生かす支援 ・実態把握のための成績処理の工夫 ・教研式学力テストの継続的实施と分析 ・きめ細かな指導に生かせる評価規準の見直し <p>(5)保護者・地域との連携</p>
--	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童の育成」 個に応じたきめ細かな算数指導を通して</p> <p>研究の見通し 算数指導において、少人数指導や TT 指導の導入など個に応じたきめ細かな指導のための指導方法や指導体制の工夫・改善を行えば、基礎・基本の確実な定着を図ることができ、自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する児童を育てることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1)個に応じたきめ細かな指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導（習熟度別コース学習を含む）学年・学級 TT を取り入れた算数の指導体制の工夫・改善 ・児童の実態に応じたきめ細かな指導計画の改善 ・習熟度別問題解決的学習スタイルの確立と教師の支援の工夫 <p>(2)基礎・基本の定着と個に応じた補充・発展指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝自習時間の充実 ・習熟度別学習プリント及びワークシート等の作成と活用の工夫 ・家庭学習プリントの作成と活用の工夫 ・掲示物や数学的な思考を刺激する具体物・教具の作成と工夫 <p>(3)一人一人の学習状況に対する適切な評価と支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の工夫 ・実態把握のための成績一覧表の改善と活用 ・教研式学力テストの継続的实施と分析 ・小中の連携を図った児童生徒の評価 <p>(4)保護者・地域との連携</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(1) 少人数指導（習熟度別指導を含む）を導入し、きめ細かな算数指導を実施してきた結果、児童の算数に対する意欲・関心が高まり「授業が楽しい、よく分かるようになった」の声が多く聞かれ、数字に表れる成績向上も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に対するアンケート結果によると（2年生～6年生対象平成15年12月実施）算数が楽しいと答えた児童は、89%、少人数授業は分かりやすいと答えた児童は、90%だった。この数字は昨年と同じであるが、その理由は、
--

- 学習形態の変化などの目新しさからのものではなく、授業内容がよく分かり楽しいから、自分のペースで落ち着いて学習できるからといった意見が多かった。少人数指導のよさを実感している内容のものが目立ったことから、児童に少人数指導が定着し習熟度別コース学習を前向きに受け入れていることが分かった。
- 平成13年度1学期全単元の得点率及び14年度1・2学期全単元の得点率と比べた15年度1・2学期全単元の得点率は以下の通りである。

	13年度	14年度	15年度	14年度との比較
2年			88.3	
3年			93.4	
4年	83.9	88.2	88.4	+0.4
5年	84.0	86.3	87.7	+1.4
6年	77.4	84.9	84.0	-0.9

- 6年生については、得点率がやや下がった。1学期当初の単元の得点率に比較すると上昇傾向にあるものの、既習事項の定着がやや難しい児童の実態を踏まえたうえで、さらにきめ細かな指導を工夫する必要がある。
- (2) 学級の枠にとらわれず、複数の教員が学年全体の児童を指導することにより、児童を多面的にとらえ一人一人の良さを認めることができた。また、日々の情報交換・共同の教材研究や教材開発、授業研究会等を通して、教員が指導力の向上に努めることもできた。
- (3) 自己評価カードの改善により、児童の学習意欲を高めたり自分の力を把握するための資料を用意することができた。その結果、4年生以上の児童はコース選択がある程度的確にできるようになってきた。前述アンケートによると、
- 自分にあったコース選択ができたと答えた児童は、全体で91%（内訳は、4年生88%、5年生91%、6年生93%であり、学年が進むにつれてよりの確にコース選択ができるようになってきたことが分かる）
- (4) 一時間一時間の指導内容を確認し合い、だれがどこでつまづいているのかがチェックできる評価一覧表を作成し活用したことで、児童一人一人の習熟の様子を指導にあたる教員間で共有できるようになり、ねらいの達成状況が不十分な児童への支援が計画的にできるようになった。
- (5) 保護者へのアンケート結果から、フロンティアスクールとしての取組が理解され、期待されていることがうかがえる。（ ）は14年度
- 取組をよく知っている 45%（37%）、少し知っているが52%（61%）
 - その取組が良いと考えている 88%（85%）
- (6) 算数科の指導できめ細かな指導を工夫していることが、他教科の指導においても生かされ、児童一人一人に目を向けた個に応じる指導の充実につながっている。

2. 今後の課題

- (1) 数学的な考え方を身に付けさせるための手立ての工夫
- 観点別の学力をみると、数学的な考え方が伸び悩んでいる。思考力や表現力を高めるための問題解決的学習のあり方を見直したり、他教科における思考力の育成にも力を注いでいきたい。
- (2) 個に応じるための教材の工夫
- 児童の興味・関心を高め、学力の定着を図るためには、習熟度別コース学習の場を生かすワークシートや学習プリント、補充・発展学習のための教材開発が必要である。朝学習では、全校体制で取り組めるようなドリルを工夫していきたい。
- (3) 評価一覧表の改善
- 単元で身に付けさせたい基礎・基本に照らして、評価項目や評価問題を見直すとともに、一人一人の伸びやつまづきに対応できるものに改善していく。
- (4) 打合せ時間の確保
- 研修の時間のほかに週1回学年ごとに放課後15分～30分程度話し合いの時間をとるようにしたり、週案を作成し連絡・調整が短時間でできるよう改善したりしてきたが、十分な時間は確保できなかった。打合せ時間を校時表の中に位置付けるなど、教材研究の時間を確保しより効果的な指導が行えるようにするための校内体制を整えたい。
- (5) 地区としての望ましい学習環境づくりの推進
- 基本的な生活習慣・学習習慣の育成は全職員と保護者、地域の連携が不可欠である。フロンティア事業推進のために、近隣の前橋市立第三中学校・敷島小学校との情報交換の充実を図り、さらに連携を深めていきたい。

